（別紙様式４―Ｂ）

# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）
# 留学（中間・結果）報告書

留学結果報告
甲府第一高校　石橋朋枝

＊＊＊

-特別支援が必要な生徒

特別支援と言っても幅が広く、その中でも生徒たちの最終目標はできるだけ通常のクラスに出席し通常の生徒とともに学ぶことです。すべての生徒に同等に学ぶ権利があるという考え方です。米国には IEP (Individual Education Program)というプログラムがあり、わかりやすく、ハンデがある生徒だけでなく、各クラスで授業についていけない生徒に対し、専門家によるテストを受け、保護者、教師、カウンセラー、校長、本人などを交えたミーティングにてその後の教育プランについて考えます。

また、一般生徒で空きコマがある生徒は特別支援教育が必要な生徒の手助けをしています。私は残念ながらその機会には恵まれなかったのですが、私がとっているクラスの中には特別支援教育を受けている生徒とその手助けをする生徒が一緒にクラスに来て、他の生徒と同じように授業を受けているものもあります。

-家族の収入が少ない生徒

家族の収入が少ない生徒でも教育を受ける権利があります。教育以外にも、学校の食堂で朝食と昼食を税金によって普通よりも安く、又は無料で提供します。また、全校生徒に一人一台クロムブックが配られ、学習の手助けになっています。学校の時間は 7:45 から 14:30 までなので、多くの生徒が学校のあと仕事をして給料を稼いでいます。

このように生徒一人ひとりのニーズに合わせ、一人ひとりが快適に学習できる環境を整えています。また、例に挙げた以外にも、全校生徒それぞれに担当のスクールカウンセラーがついており、教科選択や奨学金の相談、その他学校生活や家庭でのトラブル何でも相談できるシステムが整っています。また各授業の先生も大半は柔軟な対応をしてくれます。私が US history のテストでなかなか良い点数が取れずにいることを先生に相談すると、私専用のワークシートを作ってくださったり、逆にクラスに出された課題を簡単だと感じる生徒には、先生から特別点をもらえるプラス α の課題を出してもらえたりすることもあります。このようなすべてのシステムのゴールは、すべての生徒に教育を受ける権利を与えることです。これこそがまさにグローバルな教育ではないでしょうか。

（別紙様式４―Ｂ）

# 山梨県若者海外留学体験人材育成事業（高校生コース）留学結果報告書

私の留学生活で直接心に感じたことにも少し触れたいと思います。高校留学をする上で大切なことは、何事にも挑戦する態度で望むことだと思います。私は今までの合衆国での生活の中で、ミュージカルに参加してみたり、水泳チームに所属したり、合唱のクラスからソロで地区大会に参加することになったりと、留学のテーマを研究するだけでなくたくさんのことに挑戦してきました。その殆どは日本では挑戦したことのない、することのできない貴重な経験です。その中で新しい自分を発見することも何度もありました。

高校留学は大学での海外留学で自分の専攻する分野に対してとことん探求するものとは違い、現地の高校生と交流し、彼らと同じように生活をする中にも発見がある、ということが魅力だと思います。やはり文化の違いや人間関係で戸惑うこともあるけれど、まだ感性の豊かなこの時期にここに来れたことは自分の将来にとってとても大事なことなのだろうなと思います。改めてこのような機会をくださったことに感謝したいと思います。

＊＊＊